

〔論 文〕

## 女子大学院生に対する学生相談室の支援活動

### —クライアントが語る夢について—

Support Activities for a Female Graduate Student by the Campus Counseling Room

—Dreams Recounted by a Client—

中 島 暢 美

Nakajima Nobumi

キーワード：女子大学院生, 学生支援, 夢, ストレス

Key word : female graduate student, campus counseling, dream, stress

#### 要約

本研究では、鬱状態と診断された女子大学院生の夢の事例を解釈し、大学院生のメンタルヘルスにおける学生相談室の主意を明確にした支援活動について考察した。本事例のクライアントについては、医療機関との継続的支援が得られ、学生相談でクライアントの語る夢を聴くことによって「幼少期のトラウマ」からの解放が果たされた。カウンセラーの終始一貫した意図的態度において、クライアントとカウンセラーに築かれた信頼関係は、クライアントの自分らしく生きるための行動を促進したと考えられる。学生相談室は大学における学生支援のための一つの部署に過ぎず、その支援活動には限りがある。従って、学生相談室では、クライアントの精神疾患、精神障害や内因性精神病について治療的に関わったり、個人の家庭事情に介入したり改善したりすることはない。そのため、学生相談室カウンセラーは、学位を取得できるよう支援する主意について大学院生のコンセンサスを得ておく必要があると考える。

#### ABSTRACT

The aims of this study were to interpret the dream in the case of a female graduate student with depression and to discuss support activities by the campus counseling room that revealed the counseling room's import to the metal health of graduate students. The client in this case received continuous support from a medical institution and was freed of "childhood trauma" as a result of the counselor listening to the client's dreams in the campus counseling room. The rapport built up between the client and counselor is, with the counselor's consistent and intentional attitude throughout, presumably what encouraged the client's actions to live the life she wanted to. The campus counseling room is just one department providing student support, and its activities are limited. Therefore, the campus counseling room does not provide therapeutic support for a

client's mental illnesses, mental disorders, or endogenous mental illnesses, nor does it intervene in or improve personal family situations. Thus, counselors in the campus counseling room need to obtain the consensus of graduate students regarding its intent to support them in receiving their degrees.

## 1 はじめに

2024年度「大学全入学時代」を迎えた一方で、大学院進学率は低迷している。文部科学省による学校基本調査では、2022年度の大学院博士課程在籍数が2年連続で減少し、とりわけ人文・社会科学分野は低率で、全体の博士号取得者数は2006年度を境に漸減傾向であることが明らかになった（日本経済新聞,科学技術・学術政策研究所）。「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする」（学校教育法第65条第1項）教育及び研究機関である。博士課程在籍者数の停滞や博士号取得者の減少は、本邦の研究力低下を招きかねない問題が懸念される。文部科学省は大学院に対して博士課程修了者の就職支援を求める対策を講じたが、その有効性は一向に不透明である。2022年度の調査では、2018年度博士課程修了者は契約社員、任期付研究員など非正規雇用者が29%で（日本経済新聞,科学技術・学術政策研究所）、教育及び研究機関側の人材需要にも大きな変化は見られない。博士課程には浪人、留年や休学などの在学延長者も在籍し、その修了年齢は様々である。そもそも博士課程修了者の雇用不安は、特に女子大学院生の場合、かねてより存在し今に始まった事ではないのである。

近年、ようやく注目されるようになったのは大学院生のメンタルヘルスである。坂無（2022）による大学院生843名への調査結果では、男性より「女性の方が悩みやメンタルヘルスの状態が悪い」傾向が先行研究と同様に確認された。そして「その差異をうむメカニズムについては男女差がみられ、女性で暮らし向きが、男性で研究成果への満足度の影響が大きい」という知見が得られた。女性は研究以前に生活維持に問題を抱えているのである。横路（2021）は海外の大学院生に対する調査結果を基に「国や地域を超えて看過しがたい問題」と、大学院生のメンタルヘルスとワーク・ライフ・バランスの関係を指摘している。「大学院生がメンタルヘルスの問題を抱え込みやすい要因」には経済的不安や困難が挙げられる。内閣府が提唱するワーク・ライフ・バランス憲章には、先ずもって、就労による経済的自立という社会像が示されている。アカデミアにおける成功には、労力のみならず研究時間と研究資金が不可欠だが、大学院生から既にそれらを獲得するための熾烈な競争は始まっている。“Publish or perish”は死語ではない。成功が必ずしも約束されていない研究生活のプレッシャーというストレス要因は、大学院生における不安や鬱などの発症リスクを高めても不思議はないのである。

ストレスは日常生活における過剰刺激により惹起される心身の歪みとされている（小林編,1995）。Lazarus&Folkman（1984）は、ストレスは、個人によって主観的に評価された個人と環境的事象との関係であるとし、ストレス要因となる典型的事象を3つ挙げた。第1は、天災、人災や戦争等の劇的な大事件である。第2は、病気、失業や別離等の個人的に大きな変化を齎す出来事である。第3は、日常苛立事（daily hassles）とされる仕事や人間関係等の精神的負担、孤独感や不安といった現代人に特有のストレス要因であ

る。第1、第2の要因は誰しも必ず経験するわけではないが、第3の日常苛立事は社会生活を営むなかで誰しもが多かれ少なかれ経験するものである。個人的環境と密接に結びつき、慢性的ストレスとなり易く、日常苛立事の蓄積や対処の遅延は深刻なストレスや重大な病因の引き金になり得る。ともすれば、トラウマティック・ストレス、すなわち「心的外傷およびストレス因関連障害群」(APA,2013)に至ることもある。日常苛立事の全くない現代生活は不可能だが、過剰なストレスのない平穏で安定した研究生活という環境が大学院生のメンタルヘルスにとって重要であることに議論の余地はないだろう。

本論文では、鬱状態と診断された女子大学院生が夢を語る事例を報告、解釈し、大学院生に対する学生相談室の支援活動について考察を加える。

## 2 事例の概要

**クライアント**：外国語学研究科博士課程3年生（女性,29歳）、実家暮らし

**主訴**：「幼少期のトラウマ」について

**診断名**：鬱状態

**面接方法**：月1～2回から適宜対応、1回50分間の面接

**家族構成**：父親（58歳）自営業、母親（56歳）非正規雇用者、弟（27歳,実家暮らし）自営業、妹（24歳,一人暮らし）非正規雇用者

**来談時の様子**：青白いが端正な顔立ちで170センチ近い長身の華奢な美女。ショートヘアで化粧っ気がなく質朴なパンツスタイル、所作や話し方から宝塚歌劇団の男役のような印象を受けた。「家に入れるお金」や学費等はフリーランスの通訳等のアルバイト、非常勤講師や奨学金で賄っていた。倫理的配慮として、5年間に亘る学生相談の終結時に学会で発表する可能性について説明し承諾を得た。

## 3 面接経過（クライアントの発言を「」、カウンセラーの発言を〈〉と表記する）

### （1）第1期 #1～#19（X年4月～X+1年3月）葛藤期

**#1** カウンセラー（以下ではCoと表記する）がカウンセリングを始めるや否や、クライアント（以下ではClと表記する）はダムが決壊したかのように喋り続けた。留学したかったが学部の非常勤講師が決定し、指導教官のM教授（50代男性）に「決定を覆したら将来はない」と叱責され、やる気が失せたと涙を潤ませた。昨年に友人が自殺し「ロシア語を続けても自殺しかないのか」と悲嘆に暮れる。「父が体調を崩し、自分も新年度から不安定になった。鬱についてネット検索し、幼少期のトラウマに気づいた。小6の時に両親が離婚（2年後に復縁）。母が弟妹は連れて行くけどお姉ちゃんは大きいから選んで、と。泣くとうなるのだろうか」と思い泣けなかった。家が辛くて仕方ない。」鬱積した気持ちを両親に訴え、両親は「子どもは平等に愛している」と謝ってくれたと話す。Coは一筋縄では行かない事例と直観し、常に学部生の予約で埋まっている学生相談の継続についてはClに任せた。**#2～#7** Clは2カ月後に来室した。アルバイト先の男性上司の「理不尽にキレた」り、男性講師に「不平等」をくってかかる一方で、M教授に頼まれる仕事や雑用は「断れない」。高2の頃に鬱症状に気づき「自信がなく、ロシア語能力（合格率9.5%の第1レベル）を高評価されると居心地悪い」と目に涙を浮かべながら話す。父親が持病で入院中に解雇

され、大学院進学を断念した話では涙が溢れ落ちた。卒業後は自活し、出版社で翻訳の仕事に就いたが、男性上司にロシア語を見下されて憤り、ロシア旅行を機に進学を決意し、「生活のために」実家に戻ったという。「研究が一番したい」と吐露したCIの長引く鬱症状を心配し、Coは医療機関への受診を勧め、紹介状を手渡した。**#8** 後期、CIはA心療内科で抗不安薬と抗精神病薬を処方されていた。「全部仕切りたようなA医師（30代男性）に伝えたくない事は断った」と言うも、「幼少期のトラウマ」（#1）が繰り返され涙目になる。A医師からは以下の手紙が届いた。[鬱状態として投薬を始めましたが通常の鬱状態とは異なるようです。学問的上昇思考が強く、社会的不適応を起こしている印象です。服薬は不本意なようですので、日常生活のリズムを整え規則的な生活をしてみたらとアドバイスをしています。]**#9** 学内で軽躁状態に観えたCIが「薬が効いて気分が良い」と言うので、「よく見る」と持参していた夢について聴くと途中で涙声になる。CIは、小学生の頃から見ている反復夢（夢1）や、高校生迄は家族で頻繁に外食していた事を話す（夢2）。CoはCIにとって印象的な夢を聴くことにした。【夢1：家に帰ろうとしているがどうしても辿り着かない。】【夢2：家族で通う喫茶店（現実では果物が美味しい店）に行ったが弟は離れて座った。皆でおこわを食べようとしている。】【夢3：駅に迎えに来た父と、飼犬のリードを辿ると犬好きのオバサンがいた。】【夢4：耳が聞こえない家猫（現実では飼っていない）を病院に連れて行きたい。】【夢5：文化祭でトイレが混んでいて諦めた（トイレが混んでいて諦める夢はよく見る）。ロシア土産物店のトイレに行き電気をつけようとしたら店員に電気をつけてはダメと言われた。】【夢6：高級レストランのパーティで大勢の人がいる。別室に閉じ込められ、研究会の人達にどうしているのと問い詰められる。】【夢7：風呂場で料理番組を撮っている。去年と違う丸いチョコレートがどうしても上手く作れない。】【夢8：デパート屋上のレストランに行く為にジェットコースターに乗り必死でしがみついた。レストランのランチは4時間800円の筋肉トレーニングだった。】【夢9：登山で頂上までの時間を測られたが大した記録は出ず、1位と2位が争ったのだなあと思った。】【夢10：駅で定期が見つからず電車に乗り遅れる。】【夢11：プロモーションビデオの撮影で、髪が肩までであることに気づき伸ばして良かったと思う。】**#10**「夢の話ができるのが嬉しい。」学生時代から飲食店を経営し、飲酒運転で何度か警察沙汰になった弟は夢に頻繁に出るが日頃から会話がないう（夢12,夢13,夢14）。父親が交通事故に遭った時や弟が入院した時、CIは遠方の母方祖母に預けられた。「弟のせいで我慢させられた。意味深な夢だなあ（夢15）」。部屋の扉を閉める夢はよく見るが「目覚めてからもこんなに泣いたのは初めて（夢17）」と涙ぐむ。【夢12：弟が死んでいる。誰も気にせず、どうしようどうしようと言っている（2回見た）。】【夢13：新婚カップルの夫が車を運転していたが途中で妻と代わる。自分は弟が運転する車に乗っていたが危険なので降りた（現実では両親と弟は車を共有している）。埋葬寸前の死体がゴロゴロある広場を通り過ぎると葬式があった。こういうときだけ親戚が集まるねという会話が聞こえた。】【夢14：弟主催の14日間のキャンプに誘われたが2日間しか行けない。】【夢15：母方祖母を際立たせた家族写真を5枚撮りたい。カメラ目線の妹にダメと言った。】【夢16：妹をバラバラにしてやるという脅迫状が家に届く。】【夢17：父と大喧嘩して部屋の扉を閉めた（現実でもよくある）。建付けが悪く扉が閉まり難い。腹が立って怒鳴り声が掠れて音にならない。赤ん坊の姉と弟が、父の食べ残しの饅頭になった。煙草を吸う人の食べ残しなんか食べないとキレる。】**#11** 生理不順の



CIはA医師に薬の副作用を訴えていた。「ロシア人とフランス人は夢によく出てくる（夢18）」。CIは高校でフランス語の非常勤講師をしていた。「靴は買わなきゃと思っている（夢19）。小説や映画に入り込んだら抜け出せず、怖いと感じたりすると夢で見る。」【夢18：フランス人男性の団体が授業参観に来た。オジサンとぶつかってフランス語で謝った。保護者が屋上に空飛ぶ車で迎えに来た。エレベーターも怖いので空飛ぶ車はもっと怖いだろうなあ。】【夢19：モスクワ大学近辺で靴を買おうとしてサンダルを試着したら壊れてしまった。1週間で直ると言われたが買わなかった。】【夢20：フリーマーケットに白と赤の格子柄の蛇がいたが、スカイブルーの蛇に呑み込まれ口の中から見えている。怖くて殺したいと思ったが近寄って見ると怖くなかった（目覚めた時は綺麗だったと思った）。】#12 CIは初経が来た「小6迄、橋の下で拾われた子であって欲しいと思っていた」と呟くも、初めて涙を見せなかった。Coが〈現実の生活で起こった事を夢で反復しているのでしょうか?〉と尋ねると「そうではないが現実の印象は強い」と応えた。【夢21：世界終焉の日に、海が割れてストーンと落ち、ああこれで死ぬのだなあ、死ぬ時には過去が走馬灯のように巡るといわれているがそうではないなと思っている（高校時代に雪山登山で滑り落ちた事がある）。】【夢22：誰かが子犬を6匹産む。】#13～#14 増薬で眠気を訴えるCIに、Coは眠い時は寝るなど今迄と違う生活の仕方を勧めた。CIは終日寝るようになるが、「幼少期のトラウマ」（#1）は繰り返された。CIの父親は大卒の会社員だったが、上司と喧嘩して辞職。転職を繰り返し、50歳過ぎて起業した。母親は高卒で長年勤めた工場が倒産し、食料品店で働いている。妹は高卒で派遣社員になった。借家住まいだったが、CIが自活後に、両親は新築一戸建てをローンで購入し「綱渡り状態」らしい。CIは、国際会議の通訳で知り合った年上の男性を好きになり、学部時代から付き合っていた元カレを振った「罪悪感」があるとするも「1回壊れたものは元には戻らない」と話す。その後、数カ月交際したロシア人は既婚者とわかり破局。「寝るだけ寝たという人もいた」と性的に放蕩であることを隠そうとしなかった。CIが涙を見せなかったので、Coが〈大丈夫ですね?〉と確認すると「最悪、自殺だけはしないと思います」と挑発的だった。#15 母親がゴミ箱で拾った弟の日記に綴られた姉への劣等感が発覚し、CIは「母に男だったら良かったのに。弟は女だったら良かったのと言われた」事を思い出す。CIが乳児の頃は父親の生家に同居。生家の長男は別居、次男は勘当、三男はアルコール依存症だったという。長男第一の家風で末子の父親は冷遇され母親が別居を望んだ。その母親にはCIと同様に妹と弟がいる。「母によく駄々を捏ねた弟は、母似で小柄で要領の良い妹と仲が良い。きょうだい（姉弟妹）は運命共同体だと思っている。」CIは容姿と性格が酷似する父親に「ロシア語だけはやめろ」と反対されたのでロシア語を専攻したという。〈家族から逃れて自分らしくなりたいのでしょうか?〉というCoの解釈に、CIは少し嬉しそうに見えた。#16～#17 年が明けて来室したCIは髪が肩まで伸び（夢11）、笑みもこぼれた。CIは高2の時、父親の持病に弟妹と共に感染していた。養生せず飲酒する父親は「家族を不幸にする存在」と憤る。「何でそんな馬鹿なことができるの!と。父は呑み助なので仕方ないな、と。母がもうやめてと合図した。〈窘めるのですか?〉「自分はそのつもり。」「あなたの仕事?」「母の…ですか?」CIは、母親がCIの自活に怒り音信不通になった事を思い出した。「妹とは連絡を取る母が辞書を貸してと言った時、母も物事を考えるんだと思った自分に驚いた。」Coは〈家族の中の自分を見つめ直す〉提案をした。【夢23：死胎児に注射したら生き返った。夢24：死

体を海底から引き上げ永久保存加工したら生き返ったような出来映えになった（両方とも1～2週間前に見た）。】#18～#19 CIは休学するも学部の非常勤講師は続け、博士論文提出のために学生相談の継続を希望した。高2の頃、「弟が寝ているから静かにしてねと言われ、いつも静かにしていつ遊んだらいいの！と母に怒った幼い自分の話が出て家族の前でポロポロ泣いた。」その頃から家族に「赤ちゃん言葉」で話し、妹は茶化し、弟は鼻で笑い、父親は苦笑いしているが、母親は嫌がってないと話す。父親はCIが躰た飼犬を「甘やかした馬鹿犬にってしまった」。動物嫌いだったが今は可愛がっている母親は単純なのに頑固で「他愛ない愚痴は聞き流している」（夢3）と話す。「父の健康管理は母の仕事だと言われ（#16～#17）気にならなくなってきた。」「夢の中で怒ることが多く、前は怖い夢で後味が悪かったが、なくなった。」〈夢に現実感がありますね。〉「えっ？」〈そういう場面が実際にあったら怒るのでは？〉「怒ります。」〈夢でも怒っていますね。そして後味が悪くなっている。〉「ああ、そんなふうになるんだ。」【夢25：知人男性が抱きついて触るので、やめてと振りほどき指を掴んでバリッと割ってやった。でも知人男性が悪いと思っている。夢26：車に轢かれた妊婦の友人を病院に連れて行くとエレベーターがなく、抱えて5階まで上がった。怒っているとそこは戦場だった（両方とも今日みた）。】

## （2）第2期 #20～#50（X+1年4月～X+3年3月）混迷期

#20～#21「モスクワ在住のロシア人教授が病死した。春休みに会えず、訃報を聞いて後悔した」とCIは落涙する。〈他にもそういうことが？〉「高校の時の担任。最悪されていると冷やかされたので素っ気なくしたら、その日に自殺した。」〈自分を責めてしまうのですね？〉「後で怒りが込み上げてくる。もっと感情を言葉にしたい。」CoはCIに責任はないこと、親しい人を失った悲しみは当然の感情であることを伝えた。CIは「ここに来たら泣ける、不思議」と言う。【夢27：友人の米国人女性とお祭に行く。ピラミッド型チョコレートを食べ、お酒でハイになった。友人が“母”の文字の筆順で撃ち殺される。殺し屋が「殺される人と殺す人が決まっている」とピストルを自分に突き付けた。「オマエを殺す役割だが殺したくない。」もう死ぬと思ったら11時の時間切れで助かった。】#22～#24 CIは初期の頃の男っぽい印象に戻った。深夜オンラインゲームに「現実逃避」し、親からの潤沢な仕送りがある同期生（女性）の間で流行っていた歯科矯正治療を始めていた。CIは同期生らと楽しいお喋りに興じ、高級ランチを食べ「何でもないように支払う」と話す。Coが〈楽しい存在の仕方は様々〉と話す「考えたことなかった」と呟く。【夢28：あなたは天皇ですとお告げがある。天皇をこき使い、こんな目に遭わせて後で思い知らせてやると思っている。】【夢29：高層ビルの階段を、郵便函に入っていた焼きそばを食べ、本を読みながら上る。焼きそばがひっくり返って頭の上にかかり、髪の毛にくっついて取れない。】#25～#27 Coは「エロスが強い女にイライラする」CIに、「赤ちゃん言葉」（#18～#19）を取り上げ、〈受け入れ難い自分が存在し、それを表現している女性が嫌なのでは？〉と指摘した。「女らしくするにはどうすればいいのかわからない。」CoはCIの「はあ」という返答を指摘した。「女らしい感じがして『ええ』と言えない。」〈男性も使いますよ。〉「父も使う。」母親と嗜好が同じで中高は制服以外でスカートを穿かなかったという。CIが博士論文を書くのが「怖い」と言い出したので、Coは学生相談の目的（#18～#19）について再確認した。#28 CIは、通訳相手のロシア人が突然失踪し、関係者の男性らと飲みに行

き泥酔して放置され、自己嫌悪で不調という。「結婚して子どもを産まなきゃ」と思ったり、渡航したいと思ったり、「考えなきゃと思うが考えるくらいなら死んだ方が楽。」一昨日に久々に後味の悪い夢（夢30）をみたという。【夢30：米国映画に出演。謎めいた髭面の老爺は狙われていて町中を飛び跳ね一緒に逃げた。レストランに逃げ込むと老爺は子どもになった。老爺は連行され殺されるらしい。扉や窓を開けると屋上まで警察がいて逃げられない。】#29～#30 1ヵ月後に来室したCIはオンラインゲームを消去していた。間もなく薬が切れるがA心療内科には行っていない。「博論書いたらロシア語から足を洗う。」〈博論書く意味は？〉「中途半端で辞めたら戻れない。」〈自分のために書くのですね？〉Coは「赤字を出さずにやっている」CIに〈お金を管理できるので自己管理できない人ではないと思いますよ〉と伝え、博論（＝自分のため）を中心に据えた生活を再確認する。CIは戸惑いながらも嬉しそうだった。「なぜ家を出たいのかわからなかった（#1）。父はずっといればいいと言うが母はそうでもない。」Coが両親とも手放したくなさそうだとすると「えっ、母もですか」と顔が綻んだ。【夢31：大洪水と大地震で日本が沈没寸前。空き家から母と食糧を集めて持ち帰った。】【夢32：自分が男性とセックスしている。隣の部屋から覗かれていたのでやめてよと言った。覗いていたのは弁護士（50代女性）だった。】【夢33：同期生ら（女性）と高層階にある映画館に行くためエレベーターで上がった。】【夢34：泥だらけの汚い魚を素手で採り、2匹目で手が痺れた。夢の中で痺れるような感覚は初めてだった。2匹目の魚を放して1匹目に触れたら、触れた部分が変色した。】#31 CIが母親について愚痴るので〈言わずとも察して欲しいのでしょうか？〉と返すと、「他人との関係でもある」という。M教授に博論の内容を変える相談をし「頭冷やせと叱られた」と零す。〈自分で決めた計画を行動に移さないと実現できないですよ？〉「現状に不満はなく今のままでいいのかも」と呟いたCIの夢（夢35）も退行しているようだった。【夢35：同期生（女性）と魔法のロープで空を飛んでいた。全裸の自分は透明の山で休憩し、性器を縫った（2回みた）。】#32～#34 CIは4ヵ月後に来室した。春休みは資料収集のためロシアに3週間滞在し、ロシア人教授のお墓参りもしたという。「研究が楽しい」と話し柔らかな雰囲気になっていた。母方祖母が滞在しておりCIの部屋で寝ているという。一方、大学院での人間関係を嘆いて流涕するCIをCoが案じ通院を勧めた。【夢36：弟が試食の天ぷらを美味しいからと勧める。風呂から出たら殺気を感じ、扉をソーッと開けて両親のもとに逃げた。包丁を振り回していた妹が右側に立って包丁の刃を上にして持っていた（妹に対し怖いというより怒っていた）。扉をガバッと開け弟の店に行った（現実でも最近、弟の店に行った）。】【夢37：男子生徒2人が喧嘩し、現実では弱い生徒が優勢だった。もうやめてと止めた（現実にあるような内容だった）。】【夢38：40代男性3人に絡まれ建物に逃げた。3人は建物に入ったら男子生徒になる。布団で寝ていたら1人（現実にいる生徒で、自分が生徒の母親に似ていると言われてからよく出てくる）が身体を触って撫でるので邪魔しないでと怒る。】【夢39：戦時中にモスクワに住む友人とバーに行った。友人は凄く汚いトイレに行ったが私は行かない。テーブルに果物が置かれ日本語でどうぞ食べて下さいと書かれていた。5人（50～60代）の日本人観光客がいた。】【夢40：M教授と一緒に山の地図を見て、これなら登れると自分が力説している。】#35～#39 2ヵ月後に来室したCIは華やかな装いで澁刺とし、通訳の仕事でロシアに行っていたという。「M教授と研究に関する話が弾む。やりたいことがハッキリしてきた。秋の研究発表が上手く行けばなんとかなる」と話すCI



にCoは学生相談の終了を提案した。【夢41：ロシアからフランスに渡りたいがパスポートを忘れた。煙突の梯子を登り大使館に入ると吹き抜けて布団が敷かれていた。母が寝ていたので起こさないよう通り過ぎた。友人にパスポートを持って来て貰うことにしてお茶に誘う。友人はアイスクリーム、自分はチョコレート注文し、支払う際にお札を数えた。】【夢42：学校の身体検査に母と行った。2人の小学生の看護師が血液検査をした。注射針を刺し間違えて血が出て嫌だったが我慢した。注射針を刺された右腰が痛くて自分で引き抜き、中年女性の看護師に本当に大丈夫？と凄く怒った。】【夢43：中型客船の劇場に緑の衣装で出演。台詞を忘れ焦って台本を出した。港に着く時、タラップに中年男性が船の方を向いて立っていたので怖くないのかなと思った。船が止まるべき所に止まり一番に降りた。ロシア人女性2人と公園を散歩した後、学校で生徒になった。先生の命令で女子委員長が来て、嫌だなと思いながら自分の鞆を開けプリントの束や饅頭を見せている。】【夢44：洋館に3～5人（40～50代男性）の悪人がいる。同年代男女の仲間らと爆弾でやっつけようと侵入すると、西洋人形みたいな女の子が座っていた。爆弾を預け「逃げてー」と女の子に言って全力疾走。振り返ったら洋館に住むおばあさん（70～80代）が真っ青のネグリジェを着て出て来たので手を差し伸べた。爆弾は爆発しなかった。】【夢45：劇に出演するのに寝過ごしたが後半出番に間に合う。着替えやすいスカートを履く。ロシア語の台詞が憶えられずカンニングしようと思った。後輩（女性）がロシア語で日本の商店街の説明を始め、それくらいはわかると思いながら聞いた。後輩とお菓子を買いに行くと、自分の好きなチョコレート屋があった。奥には服や靴も。真鍮の緑色のサンダルが履けず、ピンクのサンダルは履けたが凄い滑りやすい。】【夢46：大きな子どもがお腹の中にいる感覚がある。大きい犬と小さい犬が同時に雄犬を産む。】#40 CIは週末に同期生の女性3人で韓国旅行をしていた。「父が眼病で手術する。自重せず悪化するくせに、出かける際に『気をつけてな』と言うのでイライラする。」【夢47：運動場にいる男女7～8人の小学生の上に魔女の黒い帽子が逆さまに落ちて来る。小学生は群がって覗き込みプレゼントを取り出す。見上げると男性がクレーンで帽子を落としていた。後で精算するのだ。女性がお金の箱を用意した。あそこで払わないといけな。】#41～#42 CIは減薬されていたが「絶不調」だった。「M教授の誕生会を欠席し『何を意識しているのか、不倫でなければいつでも歓迎』と言われ、我慢ならずに直訴したら『冗談だ。研究も言葉の裏を読みなさい』と。人間関係が言葉にどう関係しているのかという研究をしている。博論については『私があなたに何か言うことあるんですか』と捲し立てられた。先生、冷たいですねと言って帰った。M教授に研究職に就くのは厳しいと何度も言われ足が遠のいていた」と涙する。CIの父親は持病が出て、母親が初めて病院に付き添ったという。【夢48：ツアー旅行。大勢のオジサン、オバサンが90度の坂を平気で登り危険。オバサンらが写真を撮っていた看板を支えようとして自分が落ちたが勢いよく落ちたわけではなく痛くなかった。山頂の建物迄はエレベーターで上がるが、忘れ物をして下まで取りに戻り再び上がった。最上階に大勢の人。テレビに日の出が映っていた。妹は父と自分と頂上に行きたかったが、自分が寝ていたので起こさなかったと言った。妹の服の背中ボタンが掛け違えていたので直してあげる。喋る猿が怪我をしたというので見に行く。3匹のうち右足に包帯をしている1匹の雌は近寄らないでと逃げた。2匹は親子で、母猿が左肩を怪我した子猿を治してやって下さいと言う。年上の男性が手当すると雌猿が戻ってくる。“石の頭のオジサン”が、ワシの話が聞こえる



のか、ワシは人の話が聞こえないと言った。下山し駅に着くと、年上の男性が駅は麻薬が売られ危険と言う。】【夢49：（韓国に行った）同期生3人でドライブ。知り合いの男子学生2人を街で拾って変な建物の敷地内に駐車。建物に入ると同期生1人と男子学生がセックスしようと服を脱ぎ始めた。勝手にして、とトイレに行く。トイレは2つあり、1つは細長く入れない。もう1つに入ろうとすると、やめた方がいい、汲み取り式で底に死体が腐って残った内蔵があると言われ、気持ち悪くなった。】#43 CIは「嵐のような1週間だった」と滯沱した。家族会議で、母親から父親の事業失敗の借金が明かされたという。母親が母親の妹に借りて返済した途端に別の借金も発覚し、「母がもう信用できないと。秋頃に母に家に入れる金額を増やすよう言われたが断った。以前も母にお金を貸した。自活していた間も毎月仕送りした。仕送りしたことのない妹が母そっくりな勢いで『3人で折半しよう』と言い、弟は『そんな金ない』と。父は申し訳ないと泣きそうになり、離婚の理由がこういう事だったと知った。」CoはCIに自活を勧めた。#44 年明け、CIは「家を出たい。全員が許せない感じ」と涕泣する。母親が「子どもみたいに布団かぶって」CIの部屋で寝るのが「うっとおしい」。〈繋ぎ止めようとしているのでは？〉「父は住宅ローンのボーナス払いも3人で払って欲しいと。妹はクリスマスカードに『今まで通り優しいお姉ちゃんできてね』と。父は母を介して弟名義のクレジットカードを使っていた。弟は母が自分にお金を借りていることを知らなかった。」CoはCIと自活について話し合った。【夢50：初産。階段を上っている途中で産まれる。自分は代理母で赤ん坊は同期生の子ども。無事に産まれて良かった（正月に見た）。】#45 CIは「母に、この家の金庫じゃないからいい加減にしてよ！と言った。自分と弟の両方にコソコソして」と憤慨する。〈嫌われなくなかったのでは？〉「こんな信用出来ない父といられないと家を出るのに自分を残していいと思ったのか」と「幼少期のトラウマ」（#1）が繰り返され涙する。【夢51：外国人のオジサン、オバサンのグループで寺巡り。電車の最初と最後の駅名が「情状」と「酌量」。降車して歩くとデパートがあり自分と女性1人と男性1人の3人がお土産を買う。お土産の紙袋を道端に置いたら溝に落ちてびしょ濡れになった。携帯が入っていたが大丈夫だった。外国人グループや通りすがりのおばあさんと昼食をとる（2日前にみた）。】【夢52：絶対虐待するから見ておかなければ。キオスクで父親（40代）が幼い息子を殴り始めた。店外でも、別の父親が息子の足を持って逆さに振っている。警察が来て取り押さえる（今朝みた）。】#46～#48 CIは話し始めると涙目になる。A医師にもういいと言われたと通院しておらず、ルームシェアを探していた。「父への反発でロシア語を…結局自分で選んでないのか？本当にしたいことはしている。」〈ゆっくりならできる？〉「ゆっくりならできる。」〈お母さんや妹さんと違う、あなたの時間があるのですね？大切な事は慎重に決めている。でもその場の感情に吞まれる事もあるのですね。〉「断り難い。」〈なぜ断わり難いのでしょうか？〉「わからない。」「幼少期のトラウマ」（#1）が繰り返される。「M教授が、自分と似たテーマだと『潰されるぞ』と後輩らを脅きたらしい。M教授は父と似ている。」#49 CIは「凄く優しい女性」とのルームシェアを決めていた。「3月で満期退学し博論を書く。学術振興会に通れば経済的問題はない。ロシア語教室などやりたいことがいっぱい」と言う。〈ロシア語を教えたいのですか？〉「それしかできない。」〈凄く良いじゃないですか。〉CIは涙目になる。〈博論要りますか？〉「書きたい。」〈書きたいのですね。〉CIは自活を両親に話せないでいた。〈察しているのでは？〉「借金の話になりかねない。」〈払えないと言うのは辛いのですか？〉CIは泣

きながら「家を出ることを決めてからみた（夢53）」と話す。〈お母さんへのプレゼントですね。〉「何ですか、それ…（泣きながら）」Coは象徴的意味を伝えた。〈本当に出て行くのですね…。〉【夢53: トイレで山盛りの排便をした。】#50 CIは入室時から涙目だった。「今朝、引っ越すと言った。父は、急だな、気軽に帰って来たら良いと。母は、もう耐えられないの？と。普段の生活に距離が欲しかったと言ったら、わかったと。〉〈ご両親も覚悟していた？〉「言えはどうなるか考えただけでも胃が痛かった。給料日のタイミングを見計らった」と言うCIに〈円満に出られて良かったですね〉と応じると涙を流す。CoはCIを頑張ったと讃へ、ルームシェアや博論が順調であれば4月に終結しようと伝えた。CIは久しぶりに会った人には気づかれないほど外見や雰囲気「変わった。綺麗になった」と言われていた。

### （3）第3期 #51～#79（X+3年6月～X+5年3月）自立期

#51 CIは初夏になって来室した。爽快かつ女性らしいCI本来の良さが出ている印象を受けた。ルームシェアは順調で、アルバイトを控えて年末に博論を提出するという。「実家で母に会うとストレス。最近父が夢によく出て来る。」Coは前回伝えていたこともあり、何かあれば来て下さいと常套句で終結した。【夢54: 自転車で右に曲がり下手の家に入っていく。鼻を打たれたと言う父が長めのバナナのような顔に変形する。だんだん歪んでちょっと怖い（2週間前にみた）。】

2カ月後、涙声のCIから電話がある。「父が20年間親戚に借金を繰り返していた。残額を聞いて震え上がった。父が痙攣を起こしたのに母は茫然として、自分が父と一緒に救急車に乗った。両親に付き添った弁護士事務所で費用も支払った。弟は関わってこない。妹は今日実家に来る。母が父に死ねと言ったら父が殺してくれと言い、自分で死ぬこともできないのかと母が言った。」Coは来室を強く促すもCIは「行ければ…」と弱々しく応えた。#52 CIは翌週に来室した。実家に泊まっていたが弟は現れず、「そんな暗い顔しないでと怒った」妹を睨み付けて帰ろうとしたら、妹が驚くほど母親が動揺したという。「自分が黙ると妹が言わざるを得なくなった。」Coが〈少し流れが変わりましたね〉と応じると涙が零れる。「そうでもない。父と病院に着いた時に倒れて点滴した。一人では耐えられない。弟は捕まらず、妹は行けるかどうかかわからないと。腹が立って仕方ない。全員集まらないと手伝わないと言った。」帰り際に母親からメールがあり、父親が発熱したと言う。「電話して良かった。どうなっていたか。」Coが〈この1週間きちんとやれていますよ〉と伝えると、CIは「えっ、そうですか」と驚く。〈はい。〉Coは深く頷いた。#53 3週間後に来室したCIは自ら通院し、自己管理（#29～#30）にも変化が観られた。「博論に無理矢理集中し、意外と書けている。」Coが〈家を出ておいて良かったですね〉と言うや否や、CIは思いっきり後方にのけ反り「もう間一髪だった！」と叫ぶ。CIは夢を持参していた。「本が夢に出て来たことはなかった（夢55,夢56）。以前のように夢の後の不安感がない。」【夢55: 図書室にいと地震。危ない。出ようとしたら棚の本が落ちてふくらはぎに当たった。早く逃げれば良かった。】【夢56: 湖底に部屋が2つ。1つにシェアメイトがいる。自分の部屋は本だらけ。湖底温泉が爆発するのでシェアメイトが逃げる。自分は本を運びたい。本は捨てられない。シェアメイトが弟に変わり、手伝ってと言うと電車の時刻があると言うので、それまで手伝ってとしぶしぶ手伝わせた。】【夢57: 外国人4人家族と自分。妻が

夫と自分が恋仲だと疑うので言葉を尽くして説明した。夫は病気だからプールに入らなくていいと喜んでいる。】#54 2週間後、CIは薬物療法で元気になっていた。「現実逃避なのか博論がはかどる。愚痴を聴いてくれたり、お金がないと言うと食事に誘い出してくれる旧友らがありがたい。」父親は自己破産していた。〈誰が払うのですか?〉「さあ、実家じゃないですか。父が酸素器具をカッコ悪いと嫌がり、鬱々した母が呼んだ母方祖母が窘めた。気分悪いからちゃんと聞けよ!と怒鳴って帰ろうとしたら、両親が慌てて梨を剥いたからと引き留めた。ない懷から出してこれだけやっているのに誰も動かないのなら縁切りますと言って、母、弟と妹から絞り出させた。」CIには家族に絶望しつつも、今迄とは違う仕方(#13～#14)で前進しようとする確固たる意志が感じられ、Coはそれを保証した。#55 2週間後に来室したCIはもう実家に帰っていなかった。〈弟さんに印籠を渡しますか?〉「言い難い。」〈なぜ?〉CIは「わからない」と涙ぐむ。「…凄い悪いなと思ってしまう。今回の事が起こったから捨てるような。」〈それは嫌?〉「責任逃れのような。妹は沖縄旅行中で、弟もそこまで思っていない。そこまで思う必要ないという気持ちと行ったり来たりしている。今の自分の生活をきちんとしたいし、割り切ろうという気持ちもある。」〈では、なぜ?〉沈黙の後、CIは「両親は“できちゃった結婚”だった。自分ができてなければ違う人生を歩んでいたのではと凄い思う」と吐露した。〈あなたが産まれたことが悪いのですか?〉「両親が喧嘩するたび(#1)思った。」〈親の決断まであなたが責任を取らなきゃいけないのですか?〉「頭ではわかるが長くそう思ってきたので…」CoはCIの自責傾向の理由を理解した。CIの自信のなさや希死念慮の根元は、両親の諍いから幼いCIが感受した自身の生への贖罪だった。CoはそれをCIに伝え、家を出てからのCIの行動を保証した。【夢58：高校の廊下で椅子がバラバラ置かれている所で用を足そうとする。大勢生徒がいて恥ずかくなりトイレに行こうとしたら、側にいた女子が「皆ここでしている」と言う。トイレの前に行くと男女生徒がいてセックスが始まるエロティックな雰囲気だった。自分は急に教師になり「あなたたちそんな所で何しているの」と言う。反抗的な女子生徒に「若いから色々あるよね」と声をかけると「そんな頭の中をかじるようなこと言わないで」と悩み出した。授業では男性教師が奇妙な絵文字を描き生徒に答えさせている。自分が思いついたことを答えたら正解で、ご褒美のカードは赤いハートの10だった。女子生徒が見せてと言うので渡したら返ってきたカードは黒と赤の混合の8にすり替えられていた。まあいいかと思った。】#56～#57 約1カ月後、CIは博論を提出していた。「発表してきた論文をまとめたらM教授に理解された。」服薬を続け、本を読んだり、のんびり寝ているという。【夢59：電車で間にあわないので駅のホームを走った。知人男性が待ってくれ!と叫び電車が待ってくれた。車内で「あんたは潮干狩り」と言われ知人男性と別の車両に乗った。太ったロシア人の車掌(50代女性)に下着持ってきたか聞かれ、持っていないと言うと断られた。まだ出発していない。】【夢60：1駅乗り過ごししまい戻らなくてはならない。地下1階ホームの電車の扉が半分しか開かず狭い。周りの人は普通に乗り込んでいく。】【夢61：同期生とドライブ。途中から迷って山道を登って目的地に着かない(今朝みた)。】#58 年が明けて来室したCIは面やつれし、増薬され、寝正月だったという。実家に顔を出すも「母とは話してない。」最近編み物をしているという引詰め髪のCIに、以前は〈ショートヘアで男の子みたいに足広げて座っていましたね〉とCoが回想すると「ははは…恥ずかしい」とはにかむ。CIは産地に頻繁に通うほどうどん好きだった。「以前は、トイレは真っ

暗で凄い汚い怖いイメージがあった。」Coが〈なんだかんだ言ってもあなたはお母さんが好きなんですね〉と言うとCIは涙ぐんでしまう。【夢62：院生棟のトイレが凄い綺麗になったから見に来てと母と叔母（母の妹）を呼んだ。母と叔母が広くて綺麗ね、うどんも食べた、おいしかったと言う。美しいタイルの壁模様のトイレの一番奥の立派な黒石台の上に便器があり、その前の黒カウンターにうどんが並ぶ。男女の団体が並んでいるので自分は食べようか悩んでいる（初夢）。】#59～#61 CIは服薬を続け、実家には行っていなかった。博論仮審査は通り、5月に二次審査、8月に決定し秋卒業になる予定だという。「人間関係が密接で疲れる。出て行こうと思えば出て行けるがM教授に付いてきた。」〈留まらなければならない？〉「給料貰えたら割り切れる。」CIは歯科矯正治療（#22～#24）の為にアルバイトを掛け持ちしていた。「就職が怖い。ロシア語はもうやりたくないが、新しい研究テーマがどんどん出てくる」と葛藤していた。【夢63：14番出口で地下鉄が火事と聞いた。あと2人残っている。地下の奥から火が迫っており消防隊員が多くの死体を運んで来て置いていく。上半身だけ切れている死体をシートで隠していた。自分は逃げようとしている。】【夢64：下の前歯が2本抜けた。矯正歯科医（40代男性）は差し込んだら大丈夫と無理矢理差し込まれた。歯なんてついているようでついてないものと言われた。】#62新年度、CIは実家と距離を保ち落ち着いていた。しかし、相変わらず「幼少期のトラウマ」（#1）は繰り返され、落としどころがないようだった。Coは未だ話されていない何かがあるのかもしれないと感じ、そう伝えた。「それってしんどいですか？」〈しんどいでしょうね。〉CIに抵抗が生じたのか予約が随分先になった。#63～#64「弟に俺の気持ちがおまえにわかるかと言われたことがある。長男と言いたかったのか。」CIはフリーランスが気楽と教員応募は躊躇した。「幼少期のトラウマ」（#1）が繰り返され、「反発していたが、父の方が母より楽」と呟く。【夢65：タクシーの運転手に雨が降ってきたので傘を取りに家に戻って下さいと言った。「はい、そうですかわかりました」と淡々とした言い方や雰囲気Coとわかった。チャイムが聞こえ授業があるのを思い出した。】#65 CIは減薬されていたが気分の浮き沈みがあった。母親に父親が小康状態なので帰って来てと言われたが断ったという。「父が痙攣を起こした時（#52）、父を抱えたまま残され母は屋外に出て行ってしまった。父を殺そうかと思ったし、目をパッと見開いた父も殺してくれと言っているようだった。あの顔を思い出す。あれ以降、家族に対し過剰反応してしまう。」涙目で吐露したCIと、驚いたCoが顔を見合わせた瞬間、「〈そこまでされないかわからなかった！〉」と両者が同時に言い放った。CoはCIを労った。終了間際にCIが「ひとつだけいいですか？」とCoの着ているTシャツが前後逆であると遠慮がちに指摘した。Coは〈わかっていたが面倒なので〉と言うと大笑いし「直した方が良い」と言う。Coは〈ありがとう〉と礼を言った。#66 CIは企業のロシア語研修の仕事をしていた。美容や洋服代には浪費しないという。「父は普段お金を使わない。むしろ母の方。生活費さえないのに弟に新車を勧め半分支払った。実家は自分の部屋以外はエアコンがある。母に在宅時間が長いから電気代がかかると言われた。」CIは涙する。【夢66：降車駅を寝過ごした。駅の外に出て凄い溪谷を下ると濁った川が流れていた。少し登ったら上流は綺麗だったが登るのは今度にしようと思いに駅に戻った。近所にこんな川があるんだ、そのうち山を散策しよう（前回（#65）の後すぐ見た）。】#67 CIは夏休みを米国在住のロシア人男性（40代）と米国で過ごしていた。1年前にSNSで知り合い、博論執筆で「世話になった」上に、航空券を送ってくれたという。「何



がやりたいのと聞かれるとロシアと結び付けてしまう」と話すCIは幸せそうに見えた。実家から父親の保証人を頼まれたというCIに、Coは自分の幸せを一番に考えるよう助言した。**#68～#69** CIは「TVで住宅購入と賃貸はトントンだと言うのを観て、母、弟妹が即決したらしい。貧乏が沁み着いているのにそんな買物できるのかと。あの家に全く愛着ない」と言い放つ。「保証人も嫌だし、帰る事自体が怖い。」〈怖いのですか?〉「自活後も弟妹の知らない借金について母から伝えられて息が止まりそうになった。母が家族と話せないのはわかったが私と話したくないの?」と言うので驚いた。嫌がられているのは自分じゃないと。いや、あなたもだしと思った。父は母がまいつているので帰って来てくれと。弟妹も両親には感謝しているが自分はどうでもいい。」CIの目から涙が溢れた。CoはCIが母親を真っ向から拒否したのは初めてでと言うと、CIは頷いた。「家族への不信感」を夢(夢67)も表していることを2人で確認した。**【夢67**：ベットで寝ていたら、弟が置いた4つの目覚まし時計が爆発してポーンと左頬に当たった。「何を置いたの! 病院に連れてって」と頼んだが弟も母も連れて行ってくれなかった。頼んでも頼んでも「閉まっている、今行っても無駄」と言われた。もう、みたいな不愉快な感じ。**#70～#71** CIは「博士号をもらいました!」と元気に報告。教員公募には落ちたが通訳事務所から契約社員の打診を受けていた。米国在住の恋人とネット電話でお喋りし、おしゃれに精を出していると楽しそうだった。CoはCIがロシアで買ったというスカーフを首に巻くのを手伝った。**#72** CIは「最悪の年明け」を迎えていた。恋人の婚約者と名乗る女性からネット電話があり、二股をかけられていたことが判明した。恋人は、婚約者は感情的で結婚は神のみぞ知ると言い逃れたという。「彼は双方にあまりにも大きな嘘をついた。父の事がフラッシュバックした。」Coは終了を考えていたが困難に陥る。**#73** 2週間後、CoはCIに職場が変わる事を告げなければならなかった。「打ち切りですか?」CIは「理性ではわかっているけど家族への罪悪感が消えない」と繰り返した。CoはCIの語学力を生かしたこれまでの職歴を保証した。**#74～#76** CIは夏には会議通訳のためロシアに滞在するという。通訳事務所の仕事は「面白いし楽しい。」恋人は婚約者と揉めており「良い薬」と落ち着いていた。「やたら愛想良く安請け合いするところが凄い父に似ている。」〈自信…〉「ないというコンプレックスは減った。アルバイトの面接で期待された所はすぐ辞めた。」〈嫌だった?〉CIが頷く。〈自分のこと知らないのに?〉CIがうんうんと頷く。「能力はわからないじゃないですか。」〈博士号は履歴書に書けますね。〉「取ってから自信が出てきた。」夢は内容を忘れてしまうが大勢の人が出てくるので朝起きた時は疲れているという。CIはA医師に「もういいんじゃないか」と言われるも服薬を続けていた。「2～3日抜くと眩暈で頭がグラグラし、まっすぐ立てず安定感がない。」**#77** CIは駄々っ子のように泣き出す。依存性が高まり長引かせた様子がありありと見て取れたが、あと2回で終結すると告げた。「何も上手くいってない。」〈上手くいっていますよ。〉「辛うじて。」**#78** CIは来室するなり「爪切り貸して下さい」と言う。Coが保健室に行くよう促し、保健室で爪を切ってくる。一向に双方と別れようとしない恋人に別れを告げたら逆ギレされたと話す。**#79** 2週間後の最後の面接のCIの第一声は「ブルーです。」しかし、通訳事務所の正職員になれそうな事、飲酒を控えたり、愚痴を溜め込まず旧友に聴いてもらったりしている事を話す。「夢(夢68)のCoは凄く冷静だった。」〈どんな感じですか?〉「そんな感じで。事実を告げますという感じ。」しかし、CIは「夢で怖いと思うことが本当になくなった」と言う。〈この夢も怖くなかったのですね。〉

CIは頷き「わけがわからない夢はない。現実の人が出て来る」と言う。CIは心の準備はしていたようだった。Coは、今後は日常生活の中で周囲の人に愚痴を言ったり、相談したりして（#54）、ストレスを溜め込まないようにと伝えた。【夢68：外国人の子どもから手紙を渡される。「昔世話になった母を裏切った！」と凄い怒っている子どもとは徐々に仲良くなるが、今度は裏切り者のスパイとして警察に調べられる。Coが、処刑が決まり多分日中に行われると宣告する。】

## 4 考 察

### （1）「幼少期のトラウマ」と夢の解釈

CIは[通常の鬱状態とは異なるよう]だが、鬱状態と診断された（#8）。「抑うつ障害群」（APA,2013）に含まれるうつ病は、感情、認知、自律神経機能の明確で反復性のある変化を伴う悲嘆悲哀の状態が特徴的である。否定的感情を生じやすい気質や、社会生活を送るうえで生じるストレスのような、遺伝的・環境的要因の関与が大きい（中島,2023a）。CIは「罪悪感」（#13～#14）に苛まれたり、「凄い悪いなと思ってしまう」（#55）気質傾向や親族の情報（#15）から遺伝的要因が拭えなかった。また、CIの訴える「幼少期のトラウマ」（#1）は、その出来事自体がトラウマティック・ストレスに至る要因というわけではなく、それに連なる環境的要因によってCIの心理的・社会的問題を象徴する契機になっているのだと考えられた。従って、「心的外傷およびストレス因関連障害群」（APA,2013）と診断されなかったのは、A医師に「幼少期のトラウマ」（#1）について話されなかったからではない。Coは、CIは遺伝的及び発達期における環境的要因が相俟って現症に至り、A医師はCIが話そうとしない部分も含めて鬱状態と診断し、Coに託した（#8）のだと理解した。

Coは、CIが自ら夢を持参した（#9）ので聴き始めたが、Coから積極的に夢分析を実施したわけではない。夢は、「見ること自体、すでに治療的な意味をもっている」（河合,1992）とされ、一つの要素内容で幾重もの意味を表現し得る多重決定性があり、分析したり解釈したりする人の立場の違いと同じ数だけあると云われている（鑑,1979）。丸山（2007）は、夢の言語と通底する深層言語は「メロペー（＝初源的メロディ）、リズム、所作」のみならず、「絶えず新たな〈形〉へと動いている」「動きつつあるゲシュタルト」即ち「多義的象徴」と述べている。Coには、CIが現実生活で起こったことを夢でメタファーとして反復しているように感じられ（#12）、Coの受けた感じをCIに伝える（#18～#19）に留めた。河合（2007）は、知的な解釈のみではなく、夢に伴う感情の流れを大切にしよう説いている。CIは徐々に現実生活で自身が思い当たるふしがある夢を見ていることを自覚するようになり（#32～#34）、最後には夢が意味する事を2人で確認するようになった（#68～#69）。Bonime（1962）は、「夢の象徴については個人的用語集しか編めない」のであり、「夢の象徴に隠されている意味をひき出しうる源泉は、個々人の生活史において他にない」と述べている。従って、以下は、あくまでも学生相談で扱われた「臨床的な夢」（鑑,2008）についてのCoの解釈である。

先ず、CIの心理的・社会的問題を象徴する契機となった「幼少期のトラウマ」（#1）は母親がCIに迫った選択だった。CIの母親には、多くの母親がそうであるように、娘が母親を選ぶ事は自明だったのではないだろうか。一方、母方祖母には可愛がられたと思われるも（夢15,夢44,夢51,#32～34）、「橋の下で拾われた子であって欲しいと思っていた」（#12）

CIにとっては、自分は弟や妹ほどは両親に愛されていない（#18～#19）という決定打となったのだろう。Sibling rivalry（同胞葛藤）は同胞に対して抱く複合感情であり、同胞をもつ誰もが多少少なかれ不可避的に影響を受けている。しかし、CIのように生育歴において両親の愛情を巡る深刻な同胞葛藤が累積した場合は、家族関係（#2～#7,#13～#14）に影を落とすのである。妹は仕送りせずとも許され（#43）、厄介事は姉に投げる（#55）末っ子気質だった。CIは表面的には「優しいお姉ちゃん」（#44）だったが、母親似の妹（#15）に憎悪を抱いていた内実が夢で露呈している（夢16,夢36）。また、「弟のせいで我慢させられた」（#10）と恨み辛みを抱くCIの夢には、弟との距離感が顕著だった（夢2,夢12,夢13,夢14）。そのような姉のSibling rivalryは弟に確実に伝わっており、弟の劣等感コンプレックスを知った（#15）CIは、やがて弟に助けや協力を求めるようになる（夢36,夢56,夢54）。CIと弟は父親が食べ残した「饅頭」（夢17,夢43）なのだった。いくらキレても泣いても、父親の病気に感染し、父親の借金を支払う羽目になる「きょうだい（姉弟妹）は運命共同体」（#15,#16～#17,夢52）であった。CIが母親を選択し（#1）、家族の厄介事を引き受ける役割を担ったのは（夢37）、「できちゃった結婚」で生まれてしまった「責任」（#55）が重くのしかかっていたからだった。「1回壊れたものは元には戻らない」（#13～#14）と憤りながらも、CIは長子としてイニシアチブを取り、家族の厄介事の解決を図ろうと努力した（#54）。

また、「幼少期のトラウマ」（#1）は執拗に繰り返された（#8,#13～#14,#45,#46～#48,#62,#63～#64）。「解釈を行っていくための基礎資料は、夢主の日常行動や、深層に潜むその人の考え方や記憶、さらにはその時に感じられている感情などの中に求められるべきである」（Bonime,1962）。CIは、自分の意志に反して抵抗できない状態に置かれ続けたため学習性無力感を払拭できず、無価値感や自己嫌悪を生じ、鬱状態が慢性化したのだと推察される。CIの父親は借金を繰り返す人（Addiction：依存症）で、母親はそれを支える人（Enabler：支え手）だった。CIの訴えに対する両親の「子どもは平等に愛している」（#1）という謝罪は嘘ではないだろう（#40）。しかしこの謝罪に相当な（子どもが期待する）行動に親が改めるとは限らない（中島,2013）。CIは「目覚めてからもこんなに泣いたのは初めて」と涙ぐんだ（#10）。CIは自分自身の努力だけではどうする事もできず、自分が変えることが不可能な両親に対するやるせない悲しみに打ちひしがれ、その「苦痛に耐えきれない時には自分の命を終わらせる」（APA,2013）までに追い詰められている心境だったのではないだろうか（#13～#14,#28）。河合（2004）は、「血のつながり」や生活を共にする「家族」は、人生における「運命的な部分」であるからこそ、「幼いときに体験した家族との関係は、その人の人生観において、とても大きな意味を持ってくる」と述べる。CIは既に初回に「家が辛くて仕方ない」（#1）と吐露していた。家に辿り着かなかったり（夢1）、家の扉を閉める反復夢recurrent dream（夢17）は、CIの内心を如実に伝えていたのだと考えられる（名島,2003）。

さらに、CIの類似の夢を何度もみる傾向からは（夢12,#31）、過去にも同様の夢を繰り返し見てきたことが推測される。夢は「内的ドラマ」であり、「内的ドラマにおいては、必要な変更は加えられていてもあらゆる時代を通じて変わらない典型的に人間的な状況」が「演じられる」（Meie,C.A,1972）。CIの夢には自己評価の低さやその不満が表出され（夢6,夢7,夢8,夢9,夢10）、家族の茶番劇が繰り返されている（夢43,夢45）。それでも、CIは母親

に服従を誓い去勢し（夢32,夢35）、母親に不満を覚えながらも（#44,夢41）、父親を支えるため（夢4,夢48）母親を手伝う（夢31）。子に際限なく金を無心する両親に情状酌量の余地はあるのかと夢は問いかける（夢51）。CIは再び自活する決意を固め、母親へのありったけの〈プレゼント〉＝「山盛りの排便」で表現した（夢53）。Coは、CIが腐れ縁を怖いと感じるようになった（夢54）のは健全である証だと思ったが、それはCIの嫌な予感だった。CIは、過去の経験から家族に起こりそうな厄介事には過敏に反応していたのである。カウンセリングを終結したにもかかわらず、CoがCIに来室を強く促したのは、CIの予知夢（夢54）について理解が及ばなかったことへの心苦しさがあったのかもしれない。しかし、CIが「幼児期のトラウマ」（#1）に纏わる記憶を通して身につけた仕方は、「過去のそれぞれの場面場面に対して反応しているうちに生まれ」「他にも選択の余地があるということに気づくことなく生きてきたもの」で、子どもであったCIにとっては「精一杯の行動だった」が、もう成人のCIは「変わろうという選択が出来るし、変化する力も持っているのである」（Bomine,1962）。CIの夢は着々と新しい自分に生まれ変わる準備をしていたのかもしれない（夢20,夢22,夢23,夢24,夢33,夢46,夢50）。CIは、もう一人で家族の厄介事を引き受けようとはせず（#52,#53）、早く逃げれば良かった（夢55）と思えるようになる。Coもそれを保証した（#54）。いわれのない母親の嫉妬に勤付いた（夢57）CIは、自身の努力をわかるはずのない母親に褒められても素直に受け入れられず（夢62）、両親から物理的にも心理的にも離れようとしていた（夢63,夢64）。

この頃、CoはCIに「胃もたれ」のような情調を感じていた（#62）。「胃もたれ」は食物が胃の中に留まり胃のあたりが重苦しい“感じ”である。食物に問題がある場合は摂取量と内容が負担で消化に時間を要し、胃の機能自体に問題がある場合は自律神経に管理される胃の蠕動運動の低下がある。CIは初期に、家族で“おこわ”を食べようとする夢（夢2）を語っていた。“おこわ”はそれ自体が消化に時間を要する食物で、ましてや自律神経の乱れを生じる鬱状態のCIには、まさしく時間を要する家族の厄介事を象徴していたのかもしれない。“おこわ”＝家族の厄介事は依然としてCIの内に留まり消化できておらず、Coには「胃もたれ」のように感受されたのではないだろうか。そこでは、自活したCIと音信不通になる（#16～#17）といった母親の強迫的行為が、「幼少期のトラウマ」（#1）と相俟って、母娘関係において強力な心理的拘束として作用してきたことが推察される。吐瀉には辛苦を伴うばかりではなく、妻役までも被せられていた紛れもない過酷な事実が明白になる。家族の羞恥は覆い隠されなければならないものである。当然、CIには抵抗が生じた（#62）。河合（2004）は、クライアントが家族と十分に築けなかった信頼関係は、心理療法で補うことが可能であり、クライアントは「家族関係がこわれていて、それがもとに戻らないという状況の中でも、自分自身の想像力で補うことによって、りっぱに再生して」いくとしている。本事例では、CIとCoにはその瞬間（#65）に辿り着く迄の長く地道な作業と時間が必要だった。そして、その過程においてCIとCoには、CIが補わなければならなかった信頼関係rapport（#74～#76）が築かれていたのだと思われる。だからからこそ、両者が顔を見合わせた瞬間「〈そこまでされないとわからなかった！〉」と同時に言い放つ（#65）という究竟に逢着したのだと考える。こうして、Coは、CIの夢に家族に対する不信感が表れていたり（夢67）、CIの夢が現実生活と併行していることをCIと一緒に確認することが可能となった（#68～#69）。



## (2) 大学院生のメンタルヘルスと学生相談室の支援活動

大学院生のメンタルヘルスにとって平穏で安定した環境において研究生生活を送れる事は重要課題である。学生相談室カウンセラーは、そのための「リスニング」(中島,2014)の技術が必要と考える。学生相談室は大学における学生支援のための一つの部署に過ぎず、支援期間は在学中に限定され、支援活動には限りがあるのが実情である。従って、学生相談室の支援活動は、クライアントの精神疾患、精神障害や内因性精神病について治療的に関わったり、個人の家庭事情に介入したり改善したりしようとするものではない(中島2023b)。学生相談室カウンセラーは、大学院生に対しては、課程を修了し、学位取得のための支援をする学生相談室の主意について、クライアントのコンセンサスを得ておく必要があると考える(#18～#19,#25～#27,#29～#30,#31,#49)。

先ず、本事例は学外の医療機関の支援が学生相談のセーフティネットとなった。医療機関での支援により、CoはCIの「幼少期のトラウマ」(#1)という認識を否定せず、CIが夢を語る事により自己治癒を促進し、自立する支援をCIのペースで行うことが可能となった。学生相談室が常に満杯という事情もあり、Coは社会人学生であるCIの家庭の問題が主となりそうな内容を学生相談室で受けるのか否かを迷った(#1)。Coは、涙失くしては語れず、10年以上前から気づいていたという自覚症状を心配し、先ずは医療機関の受診を勧めた(#2～#7)。CIは鬱状態と診断され薬物療法が施された(#8)。希死念慮を仄めかす挑発的態度(#13～#14,#28)や、自分の出生(#55)にまで責任を感じ、症状が一進一退するCIには継続的支援が不可欠であった。有期雇用が一般的な学生相談室カウンセラーは継続的支援が現実的に難しい場合がある。CIはA医師に薬の副作用等を当初から訴えることができた(#11,#13～#14)。A医師は不必要に薬物療法を続けることはなく、CIが不調になると自ら通院するようになったことから(#53)、CIとA医師の信頼関係は築かれており、CIの心身の安定を維持するための継続的支援は果たされたと考えられる。

次に、学生相談では、「研究が一番したい」(#2～#7)と願うCIの博士号取得＝〈自分のため〉という目的に焦点化した(#18～#19,#25～#27,#29～#30)。CoはCIが自ら持参した印象夢impressive dream(名倉,2003)を聴いた(#9～)。眠い時は寝るなど今迄と違う生活の仕方を勧め(#13～#14)、CIが〈自分らしく〉(#15)存在するために、〈自分を見つめ直す〉(#16～#17)ことを提案した。「人の自己概念と生活様式とは、かなり密接に一致したものとなっている」(Bonime,1962)。CIが「研究が楽しい」(#32～#34)と自ら発したため、学生相談の終了を提案し(#35～#39)、CIの自活を見届けて終結した(#51)。しかしながら、CIが大学院進学時に実家に戻ったのは経済的理由だったにもかかわらず(#2～#7)、実家の経済事情は悪化の一途をたどり(#52)、学生相談の終結は引き延ばされた。CIの両親との関係性及び生育歴は、静穏な研究生生活を送るには至難であった。CIは「愛想が良く安請け合いする」(#74～#76)父親似だった。家では父親に怒鳴る役割だったCIは、家の外でも男性に「キレた」り、くっつかかったり(#2～#7)、憤ったり、A医師にまで強気だった(#8)。一方で、M教授に叱責されると落ち込み(#1)、頼まれる仕事や雑用は断れなかった(#2～#7)。M教授は、CIに非常勤職を与えたり(#1)、CIの研究に理解を示し(#31,#35～#39,夢40)、審査では研究を認めている(#56～#57)。決して悪質な指導教官ではなく、だからこそCIも「付いてきた」(#59～#61)のだろう。M教授に両親を投影していたかもしれないCIとM教授の複雑な「人間関係」(#41

～ #42, #46 ～ #48) は、ハラスメントと一蹴するのは稚拙である。女性研究者は、男性指導教官や男性研究者の軽口 (#41 ～ #42) をいちいち取り上げて尖っていたら割に合わない事が多過ぎる。「研究職に就くのは厳しい」というM教授の持論は、女性研究者が男性研究者を差し置いてまで、というM教授の全くの偏見である一方で本邦の現状なのである。不安に襲われる日々を耐え (夢59, 夢60, 夢61) CIは念願叶って「博士号をもらいました!」と嬉々として報告した (#70 ～ #71)。従って、この時、CIに対する学生相談室の支援活動は果たされたのだと考える。

さて、CIの「幼少期のトラウマ」(#1) は、友人や異性との関係性 (#13 ～ #14, #28, #72, #74 ～ #76, #78) にも影響を及ぼした。社会人学生であるCIだが、大学院生として現役同期生らと行動を共にした生活 (#24, #40, #41 ～ #42) を送っていたことを考慮するならば、かろうじて青年期として扱ってもよいのだろうと思われる。青年期の劣等感や無力感は現実的な事実よりもむしろ青年の概念的・主観的体験によることが多い。CIは同期生に遜色ない自分であるために高額な歯科矯正、高級ランチ (#24) や海外旅行 (#40) に散財し、その美貌を誇示するかのように奔放な男性遍歴を重ねていた (#13 ～ #14)。一方で、CIは拭えない無価値感から、自己承認欲求を満たそうと行動しては自己嫌悪に陥り、鬱症状を繰り返していたのだろう。CIは、自身の根源的な愛情欲求や、確かに両親に愛されている自分を受け容れる必要があったが、それは困難を極めた (#40)。CIは、日々の生活において、凝視したら巻き込まれて自分の首を絞めることになりかねない両親の厄介事に、常に、既に、晒されていたのだろう (夢5, 夢13, 夢27, 夢39, 夢42, 夢47, 夢49, 夢51, 夢52, 夢54, 夢58)。Coは、CIが〈自分らしく〉 (#15) 生きるため (=学位取得) に、終始一貫した意図的態度 (中島, 2006) でもって支援した (#16 ～ #17, #40, #22 ～ #24, #25 ～ #27, #29 ～ #30, #31, #46 ～ #48, #49, #52, #58, #59, #65, #67, #68 ～ #69, #70 ～ #71, #73, #74 ～ #76, #77, #79)。「人間は一人ぼっちの時も、夢を見ている時でさえも、つねに対人的な文脈の中で活きている」(Bonime, 1962)。先述したように、CIとCoには信頼関係が成立していたと思われるが、あくまでもCoは学生相談室の主意を明確にした支援活動を行っていたに過ぎない。そして、CIにもCoとのそのように限定された関係性是否応なしに理解されていたのだと思われる (夢65, 夢68)。このような学生相談におけるCIとCoの関係性を基盤として、CIの生活の仕方が変容し、それがCIの思考を好転させ、CIが〈自分らしく〉生きるための力となり得たのだと考える。

## 5 おわりに

人文・社会科学分野に限らず、どの分野においても研究力の低下は本邦の危機である。大学院生や研究者のメンタルヘルスを守ることは、優秀な人材確保と維持に欠かせない。一方で、どんなに科学技術が進歩しようとも、人は社会生活を営むなかでストレスを回避することはできない。ましてや人と人との関係においては即座の充足が難事であることが変わることはないだろう。研究者も例外ではない。誰しもストレスをも包含した生活を個人的に引き受け、「現在という生活状況の中で、現在に生きている人間としての自分自身と取り組まなければならないのである」(Bonime, 1962)。そして、将来を嘱望される研究者を育てるべく教育及び研究機関である大学の学生相談室には、大学院生のメンタルヘルスを守るための専門的な支援活動が求められているのだと思われる。

本事例は、学生相談の主意について大学院生のコンセンサスを得ることを、今後も議論するために意義ある試みと考える。

## 付 記

本事例は日本心理臨床学会第34回秋季大会で発表したものである。発表の際、座長としての労をおとりくださいました住吉心理オフィスの羽下大信先生、福岡女学院大学臨床心理センター相談員の福留留美先生に感謝申し上げます。

## 文 献

- American Psychiatric Association 2013 *DIAGNOSTIC AND STATISTICAL MANUAL OF MENTAL DISORDERS FIFTH EDITION* American Psychiatric Publishing. (日本精神神経学会監修 2014 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院)
- Bonime,Walter 1962 *THE CLINICAL USE OF DREMS* Basic Books,Inc. ( 鑑 幹 八 郎 ・ 一丸藤太郎・山本力訳1987 夢の臨床的利用 誠信書房)
- 河合隼雄 1993 ユング心理学入門 培風館
- 河合隼雄 2004 父親の力 母親の力 「イエ」を出て「家」に帰る 講談社新書
- 河合隼雄 2007 影の現象学 講談社
- 小林利亘 1995 教育臨床心理学中辞典 北大路書房
- Lazarus&Folkman 1984 *Stress Appraisal and Coping* Springer Publishing Company Inc., New York.(本明寛・春木豊・織田正美監訳(1991) ストレスの心理学 実務教育出版)
- Meie,C.A. 1972 *Lehrbuch Der Komplexen Psychologie C.G.Jungs : Die Bedeutung der Traumes (Bnad II)* Walter-Verlag AG (河合隼雄監修 (1989) C.A.マイヤー 夢の意味 ユング心理学学説2) 創元社
- 丸山圭三郎 2007 言葉・狂気・エロスー無意識の深みにうごめくものー 講談社学術文庫
- 名島潤慈 2003 臨床場面における夢の利用【能動的夢分析】 誠信書房
- 中島暢美 2006 就職活動ができない男子学生への壺イメージ療法についての一考察ートラウマの治癒ー,心理臨床学研究,24 (2) ,166-176
- 中島暢美 2013 カウンセリングで身体イメージを語る意味ートラウマの治癒ー,心理臨床学研究,31 (5) ,833-843
- 中島暢美 2014 対人援助職のためのリスニング ナカニシヤ出版.
- 中島暢美 2023a 第17章 情緒障害・精神障害の児童に対する理解と支援.234-246  
杉本敏夫監修,最新・はじめて学ぶ社会福祉 特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮,ミネルヴァ書房
- 中島暢美 2023b 統合失調型パーソナリティ障害の男子学生に対する学生相談室の支援活動,大分県立芸術文化短期大学研究紀要,61,15-34
- 坂無 淳 大学院生の悩みとメンタルヘルス：ジェンダーの観点からの統計分析と支援策の検討 福岡県立大学人間社会学部紀要 2022, Vol. 30, No. 2, 1-18
- 鑑幹八郎 1979 夢分析の実際一心の世界の探究 創元社
- 鑑幹八郎 2008 臨床的な夢と夢見本 心理臨床の広場①,1 (1) 日本心理臨床学会
- 横路佳幸 2020 大学院生におけるメンタルヘルス問題について 南山大学社会倫理研究

日本経済新聞 「博士離れ」浮き彫り 学生2年連続減 就職状況厳しく -

日本経済新聞 (nikkei.com) 科学技術指標2022・html版, 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP), <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO63729740U2A820C2CT0000/>  
「大学院生のメンタルヘルス問題」2021 年 2 月 17 日付の中日新聞朝刊  
<https://www.chunichi.co.jp/article/203249>

内閣府 男女共同参画局 仕事と生活の調和推進室 「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) 憲章 - 「仕事と生活の調和」推進サイト - 内閣府男女共同参画局 (cao.go.jp)